

カナリヤ賞
作品集

2020年

目次

小学生の部

〈カナリヤ大賞〉

杉田遥香 わたしの国語辞典 4

〈カナリヤ賞〉

出口 凜 のびるねこ 5
熱田 怜 お兄ちゃんの声 6
下地 絆 天国のばあちゃんへ 7
いがらし なお サンタさんからもらったよ 8

高校生の部

〈カナリヤ大賞〉

大野綾夏 取り残された思い出 16

〈カナリヤ賞〉

田浦美来 残響 17
栄 亜由夢 青 18
坂本琉瑠 見えない陳列棚 19
廣岡真衣 パレット 20

中学生の部

〈カナリヤ大賞〉

渡辺美愛 おねがい 10

〈カナリヤ賞〉

齋藤世理那 空 11
三摩美佳 冬の自然が触れてくる 12
杉田晃大 僕が靴ひもを結ぶとき 13
文野壮健 うつつす 14

小学生の部

〈カナリヤ大賞〉

杉田遥香

わたしの国語辞典

愛知 岡崎市立三島小学校五年

わたしの国語辞典はもさもさ頭のカラフル頭
調べたページにふせんをはっていったら
いつの間にかお祭り頭になっていた

たくさん開いて使っているから
ぶあつくてぴたっと閉じないし
もうケースにも入らない
アコーディオン国語辞典

国語辞典は言葉の商店街みたい
いらっしゃい

今日はおもしろい言葉を仕入れてあります
知りたがりのあなたにおすすめですよ
今日はどの言葉を調べようかな

どれだけ調べてもただだから
ついついたくさん調べちゃう

「もうじゅう」のところには

ライオンの落書きがある

あれ、あんまり授業を聞いていなかったのかな

「バタフライ」のところは

えんぴつでぬりつぶしてある

なんでだろう

あっ思い出した

バタフライのタイムがぜんぜん上がらなかった時だ

国語辞典を開いてみると

むかしの私に会えるんだ

なんでも知ってる国語辞典

国語辞典はわたし辞典

〈カナリヤ賞〉

出口 凜 のびるねこ

東京 足立区立寺地小学校二年

ねこです。

ねこがいます。

ねこは のびます。

ねこはしつぽが のびます。

もようのしましまも ぶちも のびます。

おひげもピンツと のびました。

両手も のびます。

両足も のびます。

つめもいっしょに のびました。

ねこが鳴きます。

ねこはニャーと 鳴きます。

鳴き声も のびます。

耳もいっしょに のびました。

ねこは のびます。

全ぶのびたら あくびして

まるくなったら ねむります。

〈カナリヤ賞〉

熱田 怜

お兄ちゃんの声

埼玉 越谷市立桜井小学校四年

おばあちゃんがさつきから考えている

そしてどうしても思い出せないと言っている

「何を思い出せないの」と聞くと

お兄ちゃんの声だという

中学生になったとたんに

お兄ちゃんの声は

急に太く低い声になった

それまでのお兄ちゃんの声は

やさしい感じがしていたが

声が変わりというらしい

「どんな声だったかねえ」

おばあちゃんはまだ考えている

私にはおばあちゃんが

少しさびしそうに見える

〈カナリヤ賞〉

下地 絆

天国のばあちゃんへ

沖繩 豊見城市立とよみ小学校三年

八月のある日、家族のみんながびょういんに集まった。大すきなばあちゃんが天国にいった数分後、病院に着いたけど間に合わなかった。

「イヤだ!」といってお母さんにつかまってないた。みんなみんなないた。

それから三日後おぼうさんが来てお経をしてもらって、火そう場に行った。

ぼくはホネになったばあちゃんを見て初めて

「もう本当にあえなくなっちゃった」と思った。

いやだいやだいやだと思った。

ばあちゃんはいつものどんなときでも

ニコニコえがおでやさしかった。

ぼくたちが何をおねがにしても「いいよ」と言った。

ぼくは生きているばあちゃんに会って写真をとりたい。

ばあちゃんは写真が大好きだったから。

なのにぼくはカメラを向けられると

なぜかいつもにげていた。

だからもっとピースしてうつればよかった。

でももうばあちゃんはいなくなっちゃった。

「もう会えないの?」とお母さんに聞いたら、

「絆の心の中でずっと生きているよ」と教えてくれた。

僕は心の中のばあちゃんに言いたい。

ばあちゃん写真とろう。

ばあちゃんランプしよう。

ばあちゃんおもちゃいてちょうだい。

ばあちゃんすききらいなくすよ。

ばあちゃんのすきな月下美人が、今朝花をさかせたよ。

こっそり見にきてね。

そして天国でゆつくりあんしんして休んでね。

〈カナリヤ賞〉

いがらし なお

サンタさんからもらったよ

東京 足立区立中島根小学校二年

サンタさんから青い自てん車もらったよ。

新しい自てん車ははやくて、さか道でかみの毛が
ビューンでしたんだ。

自てん車で、遠い公園に行きたいな。

中学生の部

〈カナリヤ大賞〉

渡辺美愛

おねがい

愛知 名古屋市立供米田中学校三年

何でも良いって言わないで

中華料理にしたら

怒ったくせに

彼氏は出来たのかって聞かないで

そのにやけ面

絶対分かってるじゃん

太った？って笑わないで

自分がスタイル良いからって

乙女はデリケートなんだよ

仲良くやれよなんて

そんな

優しい顔で

お別れみたいなこと

言わないで

大丈夫

私 真っ直ぐに生きるよ

でも ワガママの一つや二つ

残して行ってほしかったなあ

〈カナリヤ賞〉

齋藤世理那 空

東京 東京都立西国高等学校附属中学校

見上げると

目にとびこんでくる

気ままなもの

のほほんとしていたり

恥ずかしがったり

ときには急に泣きだして

周りを巻きこんで怒りだすことも

冷たくも優しくもなって

まるで僕らのよう

どうやら今日は

絶好調のようです

〈カナリヤ賞〉

三摩美佳

冬の自然が触れてくる

岐阜 大垣市立東中学校一年

木枯らし

枯葉を乗せて

頬や膝 膝に当たりよろけながら

せわしなく 通り過ぎていく

凍った水たまり

踏まれつつも 靴を濡らしていく

あるいは 昼間に溶ける運命

枯れた植物

冬になるころには もう息絶えている

車の窓からのぞく私をみつめないで

どこかと一体化している

あるいは 人の手にみずからではないけれど

からんでいる

〈カナリヤ賞〉

杉田晃大

僕が靴ひもを結ぶとき

愛知 岡崎市立竜海中学校二年

両指に力を込めて、靴ひもをぐっと引っ張る

二回通り、結び目を作る

一回めは、転ばず走れるように

二回目には、ベストが尽くせるようにと

そう念じながら

僕はいつも二回通り、結び目を作る

陸上を始めてから

僕は大会で履いた靴を捨てたことがない

捨てられるものか

ピンクの靴には、先輩と一緒に走った思い出が

緑の靴には、緊張で吐いてしまった嫌な思い出が

オレンジの靴には、優勝して流した涙が

すべての靴には

汗と、土と、うれしさと、悔しさと

みんなの応援がたくさんつまっているから

何度も結び目を作り、靴ひもが擦り切れた分

僕は成長してきた

両指に力を込めて、靴ひもをぐっと引っ張る

二回通り、結び目を作る

一つ、僕の前を誰も走らせるものか

二つ、辛くなってからが本当の勝負だ

固く、固く、心も結ぶ

ゆらゆらと湯気が立ち上る赤色のタータンに

僕は今日も戦いを挑む

〈カナリヤ賞〉

文野壮健

うつす

東京 東京都立両国高等学校附属中学校

くもっていると曖昧にうつす
たぶんだいたいうつす
細かいところははうつさない

見たくないものもうつす
気付かなかったところをうつす
これなんだ

曲がつているとゆがんでうつす
大きくうつし、小さくうつす
いいようにだけうつす
悪いところだけうつす

どんなのを選ぶ
いくつ用意する
誰をうつす 何をうつす
心は何を望んでいる

平らだと真実をうつす
ありのままをうつす

見えないところははうつさない
いくつもあると何でもうつす

高校生の部

〈カナリヤ大賞〉

大野綾夏

取り残された思い出

千葉 渋谷教育学園幕張高等学校二年

__ 147

__ 146

__ 144

__ 141

__ 136

__ 135

__ 129

ドンと構える柱に刻み込まれた、少し斜めに滑るような数字

【「じっとして」と言われ、息を止める。

背筋をピンと伸ばす私の

頭のでっぺんに細長い棒がのって、軽く押される。

甘酸っぱいレモンの香りがほのかにする母の手が鉛筆を握り
すらりと壁に何かを記す。

136

お兄ちゃんに追いつくまであと5センチだ】

マンハッタンのタワーのごとく積み上げられた

茶色く無愛想な重たい段ボールを

白い手袋をした汗っかきなオトナが

一つ、また一つ

と運び出す。

5年間の思い出を胸にしまいこんで、

最後にもう一度だけ後ろを振り向いた。

からっぽになった家は、ただ

3人の 小さな 子どもら

の成長の記録を残しただけ。

〈カナリヤ賞〉

田浦美来

残響

佐賀 佐賀県立三養基高等学校一年

音が聞こえる

何故か時は止まっていて

その音は私の胸に鳴りひびく

痛いつてまるで残響みたいだ

傷がズキズキ痛んでズンズン響く

痛みが与えられると時が止まって

止まった時間に反響するように

私の中に傷がのこる

心の傷も身体の傷も

止まった時間で聞こえなくなった音

その音は止まった時間に反響して

私の胸にもどってくる

痛いつてまるで残響みたいだ

傷がズンズン痛んでズンズン響く

その残響は私の胸に鳴り響いて

この世に私を残してくれる

私はこの世で生きている

〈カナリヤ賞〉

栄 亜由夢 青

沖繩 N 高等学校沖繩伊計本校三年

「青」を見た。

それは確かに、あの日々に僕が創り上げた

過去の遺物とも呼ぶべきものだった。

夕焼けの赤が刺し込むその場所で、

それでも僕はひたすらに青を紡いでいた。

綴った言葉たちは涙が流れるような優しさ、

息の詰まるような苦しさ。

だけどそれはあの日々でしか成し得ないものだった。

始まりは彼女だった。

向こう側まで透けて見えるような、

ひたすらに無色透明な彼女に

僕はどうしようもなく憧れていた。

僕は彼女になりたかった。

彼女の見える世界を知りたかった。

彼女のように言葉を紡いでみたかった。

彼女のように、僕は透明になりたかった。

ガラスそのものみたいな彼女が割れていなくなった時、

僕は初めて夕焼けの赤を目に焼き付けた。

初めて嘘みたいな雪の白を知った。

初めて群青色した空を見上げた。

綴った過去の遺物は涙が流れるように優しく、

息の詰まるように苦しく、

そして言葉さえ失うように美しい。

僕が「あの日」みたそれは、

透明を求めて紡いだ日々のその全てだった。

彼女のいない世界でひたすらに感情を書き殴った。

次は僕が、彼女に青を伝える番だった。

僕はあの日確かに、何よりも綺麗な「青」を見た。

〈カナリヤ賞〉

坂本琉瑠

見えない陳列棚

東京 大東文化大学第一高等学校三年

ほら、これを見てごらん

色んなラベルが並んでるだろう？

これは全部君が作った

知らないうちにできているんだ

生まれた時は分からないけど

付けるのはよくないって、言われることもあったけど

今じゃすっかり整備されてさ

全部キレイにラベル付けしていく

天然由来の優しいやつ

成分調整でおだやかになったやつ

質がいいけど扱いづらいやつ

あんまり効果がないやつも

あ、この星が気になった？

これは、レビュー。みんなの評価さ

みんな最近はこのちを見るよね

中身よりラベル、ラベルよりレビューってさ

レビューしか見ないでラベルすら目に留めない

そんな人だつてたくさんいるんだ

自分で向き合わず他人の評価で行動する人が、ね

ねえ、鏡を見てごらん？

僕たちはなんて、おろかなんだろうね

〈カナリヤ賞〉

廣岡真衣

パレット

奈良 大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎二年

色を創る

名もない色だ

例えば海と語らう難破船

あるいは雨降る街で踊る風船の色

色を創る

一度きりの色だ

例えばイーゼルにこびりついた絵の具

あるいはパレットを洗い流した水の色

色を創る

見えない色だ

例えばあの子のため息のヴェール

あるいは報われなかった努力の残り火の色

色を塗る

パレットの上

私の創った色たちが

塗られるときを待っている